



富山薬窓会首都圏支部

目 次

支部長ごあいさつ	(55、43年卒) 柿崎 直和	1
桔梗会便り	(39、26年卒) 米丸 洋子	2
卒業以来、気になっていたこと	(55、43年卒) 檀原 宏文	3
大学の新しい動き	薬学部学内幹事(庶務) 根本 信雄	4
病棟勤務薬剤師の朝	(88、H13年卒) 郡 妙恵	5
四姑娘山トレッキング	(48、36年卒) 中嶋 啓	6
100字通信〈1〉		7
「五福会」へのご参加をお待ちしております! (関東越嶺会) 立田 征夫		8
ゴルフクラブ便り	(55、43年卒) 柿崎 直和	9
100字通信〈2〉		10
平成17年度 首都圏支部 年会費 納入者一覧		11~13
平成17年度支部活動報告		14
首都圏支部資産状況		14
平成17年度会計報告、平成18年度予算(案)		15
100字通信〈3〉		16



【新富山大学 学章】

左上に配置されている、アルファベットの「T」と「U」をモチーフにしたデザインは、新富山大学が、大空・世界を飛翔するイメージを表わしています。大きい楕円は国際社会を小さい楕円は地域を表し、一体となって発展することを表現しているシンボルマークです。そのシンボルマークとともに使用されている、四角は伝統性を示しており、シンボルマークが三次元的にダイナミックに構成されることにより創造性の豊かさを表現しています。メインカラーのパール感を持った知的な印象のブルーグレーは個性的な色です。また富山の豊かな自然の雪や水をもイメージできます。自然や人々からの調和の中から生まれる独自の創造性を生かし、活躍する学生を育てていく世界レベルの大学を表現しています。



みんなの力で、“富山大学薬学部”を ベスト・ブランドに育てましょう

首都圏支部長(55、S43年卒) 柿崎直和

近年にないほど雪が降り、寒かった冬の後なのに、桜はいつもより早く、しかもみごとに咲きました。みなさまにおかれましては、お健やかに良き春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年支部総会で、加藤健二前支部長の後の大役を引き受けて以降、慌しく一年のサイクルが進んできて、総会のご案内をお届けする時期がやってまいりました。就任時のご挨拶で、「富山大学薬学部」のブランド価値を高めることが、同窓会の大きな役割」と述べさせていただきました。全国各地に続々と創設され始めた新しい薬科大学、薬学部の情報を耳にするたびに、いかに求人難が続いて人気の高い薬学部とはいえ、「そんなにも多く、薬学を学びたい学生がいるのか？」と心配になりながらも、それぞれが「どんな大学にしたいのだろうか?」、「どんな学生を育て、世に送り出そうとしているのだろうか?」などと想像してしまいます。

たまたま現在、社内で社史(90年史)編纂の仕事に携わっていますが、創業のころの、いまの用語でいう“ベンチャー企業”として、熱い志を持った人たちの創意工夫と強い信念をあらためて検証する過程を経験して、「今日に至るまで脈々と、社員と会社に流れる創薬と育薬の遺伝子」を感じさせられているところです。90年間に亘って新しい医薬品を世に送り出してきたプロセスの積み重ねが、“企業のブランド力”となったのでしょうか。

自ら富山大学薬学部を選んで受験し合格して「薬都”富山”(このすばらしい呼び名を冠する都市は、日本広しといえども富山市しかありません!)に学び、卒業して後は、さまざまな機会に母校の誇りを肩に背負い、ときには緊張し、同窓の仲間たちに助けられ励まされながら今日まで活躍してきた卒業生は、百数十年の歴史を経て、すでに9,000名にもなっています。

新しい薬科大・薬学部が20以上、しかもここ数年の間に、一挙に開設される情勢のなかで、私たちの伝統ある“富山大学薬学部”のブランド価値をいま、どのように評価し、どのようなビジョンのもとに育てていくのか? もちろん、大学(とくに薬学部の教職員と学生)が第一の当事者であることは当然ですが、私たち同窓生ならびに最大の支部である首都圏支部の役割も相当に大きいと、少しばかり気負っているところです。

まずは、支部総会に多くの会員の方々が出席してくださり、ご意見やご提案を発言して下さるよう期待しています。今まで実行してきた支部の諸活動を再評価して取捨選択し、本部や他の支部と連携しながら、新たなアイデアを盛り込んで活動したいものです。

現在、定例的な支部活動としては、『総会』(毎回、同窓生によるすばらしい「話題提供」をいただいています)の他に、70回(35年の歴史)を数える『薬窓会ゴルフコンペ』と、女性会員の勉強会である『桔梗会』(28年の歴史)があります。近畿支部が始めた「山金会(さんきんかい。みんなが気軽に集まって歓談と情報交換する、月1回、第3金曜日の会。他支部からの参加も、もちろん大歓迎)」も盛会が伝えられますし、当支部としても「メンバーが日ごろの勉強の成果を披露し合い、先達の体験談(講話やスピーチ)を聴くサロン風の会」の企画を幹事会で検討してみたいと考えています。わが国よりも一足先に少子化に直面した米国では、生涯学習に力を注ぐことによって、再び大学に一般市民を呼び戻すことに成功、大学倒産の危機を乗り切ったといわれます。知的な環境に慣れ親しんだ人々は、いつまでも学習したいのではないのでしょうか。

世はまさに「顧客志向」の時代。大学にとって「顧客」とは誰か? 支部にとって「顧客」とは誰か? これから私たちは、あらゆる分野で「顧客」を明らかに意識して、多様で鋭いニーズに応じていくことが求められます。支部会員のみなさまのご支援とご協力を、衷心よりお願い申しあげ、ごあいさつとさせていただきます。

桔梗会便り

(㊸、S26年卒) 米丸洋子

桔梗会の歩みも本年で28年になりました。今まで3年がかりで取り組んでいた免疫学のテキスト「シンプル免疫学(南江堂)」もこの3月で終わり、5月からは新しく「シンプル薬理学(南江堂)」を輪読して行く予定です。その他、マンネリ化を防ごうと英会話を取り入れたり、時には外部の講師をお願いしたり、ビデオを用いたりしています。2年に1度は懇親旅行も企画していて、今年4月には信州方面へ1泊で出かけます。何分、同窓女性の集まり、アットホームな雰囲気が何よりの魅力です。＜仲良く、話題が豊富で楽しみながら＞が会の継続を支えてくれているのかも知れません。

また勉強会として発足の当初、いろいろご指導下さった飛永先生(注:㊸飛永精照 元昭和薬科大学長)、お忙しい中から会の方向づけやテキストの選択など親身にアドバイス頂き本当に有難うございました。こんなに長く続く会に育ったのも先生のお力添えのお陰と深く感謝致しております。

昨年11月、思いがけなく日本薬史学会の方から桔梗会がかつて発刊した「女子学生30年の軌跡-富山大学薬学部女子卒業生のアンケートからの考察-」を是非見せて欲しいと申し出がありました。桔梗会では1980年、折から女子学生亡国論などが取り沙汰されている世相の中で、自らの反省のためにも各自が卒業後直面して来た多くの問題、例えば職業と家庭生活、女性差別等々について現実や実態を明らかにしたいと話し合う機会がありました。そして全国の同窓女性の皆さんにアンケート調査に協力して頂き、寄せられた生の声をまとめ考察を加えて小冊子として発刊しています。丁度それが手元にありましたの

で、お見せした所、丁寧に読んで下さった学会員の高橋文様から「この様な調査は他に無く、今や貴重な資料であると評価します」とのお言葉が届きました。「25年前にこんな調査を企画、立案し、実行してまとめた世話役にも、またそれに応じて回答を寄せられた方達にも、女性薬剤師としての自覚や開拓精神のようなものが感じられて非常に感慨深く思います」と述べて下さっています。薬史学会では6年制実施を契機に、現在薬剤師の67.2%を占める女性薬剤師にとって何が問題なのかを歴史的な変遷を踏まえながら明らかにしたいと念願されているようです。

6年制の実施は女子の比率の高い薬学部において学生や女性薬剤師の進路や就職にどう影響するのでしょうか。25年前、職業と家庭を両立させていると回答した人が37.1%だったことを思い、私達にとっても関心の深い問題と感じられます。『医師・歯科医師・薬剤師調査』によれば「無職の者」の割合が女性薬剤師に際立っている由、このことは現在も大きな課題であると思われます。後輩の皆さん、どうぞ社会の要望に応じて高い専門性を備えた質の高い薬剤師を目指して下さい。ご活躍を心から期待致します。

◇桔梗会へのご入会はいつでも大歓迎です。

桔梗会問い合わせ先

㊸定留温子氏

TEL & FAX: 0424-65-0206

桔梗会例会

毎月第3土曜日 PM 1:00~4:00

JR、地下鉄南北線 王子駅北口

“北とびあ”

卒業以来、気になっていたこと

－ 6年制を迎えた

薬学教育の現場にいて－

(55)、S43年卒 北里大学薬学部

檀原宏文

私の富山大学薬学部

私は、1944年、四国は香川県の生まれです。四国とはいっても冬には雪に埋もれるような遠国ですから、身の回りであって文化的な香りのするものといえば、唯一、富山の配置薬だけだったような気がします。薬売さんは何段重ねにもなっている柳行李から手品のように薬の小袋を取り出しては古いものと交換して帰って行きます。小袋には、薬の種類ごとに違った絵が描かれており、子供の頃はこの絵を眺めたり匂いを嗅いだりして過ごしていました。母親がこれを飲ませてくれる時は、薬の匂いから小袋の絵柄が浮かんで落ち着いた気分になり、病気は早く良くなるような気がしました。こんな原体験があったか、大学は迷わず富山大学の薬学部を選びました。

pKDSC50

私の専門は病原細菌学ですが、これに辿り着く迄には紆余曲折がありました。卒業研究では中島松一先生のご指導で牛黄の免疫抑制作用を調べましたが、これが研究のスタートになりました。そのまま修士に進みたかったのですが、果たせず、エスビー食品の子会社で粉末ガーリックの製品化を手掛けたりしていました。二年でここを辞め、四国に帰りもう一度勉強をし直して修士に入りました。rRNA合成に及ぼすテストステロンの影響が修士論文になりました。この時期、遺伝学にも興味を持ち、博士課程では薬剤耐性プラスミドの遺伝子構造に関する研究で学位をとり

ました。留学・東大助手時代にも薬剤耐性プラスミドの複製と安定維持に関する研究を続けましたが、北里研究所に移ってからはテーマを今の病原細菌学に変えました。そして直ぐ、サルモネラの病原性プラスミドを発見できたのは幸運でした。pKDSC50と名付けたこのプラスミドは私の分身であり、この研究はライフワークとして現在も続けています。

卒業以来、気になっていたこと

この3月、ほぼ40年ぶりに富山大学を訪ねました。卒業以来、私には気になっていたことがあり、それが整理できないかと思ったからです。整理したかったのは、在学時代に直面した学生運動、学園の民主化闘争と呼ばれていたあの運動は一体何であったのかということでした。そして、旧薬学部校舎の前に立った時、当時の薬学部自治会が行った一つのアンケートのことを思い出していました。このアンケートとは学生による授業評価でした。情熱をもって講義して下さる先生への評価は高く、また、このような先生方には今もなお影響を受け続けていることをふと思えます。大学の講義には教員各自の研究が反映されます。そうすると、あの授業評価は学生による研究評価(直感的評価)であったともいえます。今ではどの大学でも採用している授業評価が富山では既に40年も前に学生運動の一環として行われた、富山での学生運動は授業評価を生んでいた、こう考え少しは気を楽にして雪の五福をあとにしました。現在の私は学生に評価される立場にありますが、6年制を迎えた薬学教育の現場にいて私の原点は40年前の富山にあると実感しております。支部会では、私の分身pKDSC50と私の考える薬学教育についてお話ししようと考えています。

最後に、このような機会を与えて下さいました同期の親愛なる柿崎直和君(富山薬窓会首都圏支部長)には深くお礼を申し上げます。

1964年～1968年	富山大学薬学部(卒業研究:和漢薬研究施設・臨床利用部門)
1968年～1970年	エスビーガーリック(高田市、現上越市)
1971年～1973年	金沢大学大学院薬学研究科(修士課程)
1973年～1977年	東京大学大学院医学研究科第三基礎医学(博士課程、医学博士)
1977年～1980年	マックスプランク分子遺伝学研究所(留学、西ベルリン)
1977年～1986年	東京大学医科学研究所(細菌研究部、文部教官助手)
1986年～1992年	北里研究所(細菌部、室長)
1992年～現在に至る	北里大学薬学部(微生物学教室、教授)

大学の新しい動き

薬学部学内幹事(庶務担当) 根本 信 雄

ご存じのように、富山医科薬科大学は平成17年10月1日をもって、富山大学、高岡短期大学と統合し、富山大学となりました。英語名はUniversity of Toyamaです。またこれに伴い、E-Mailのアドレスが変更となりますので、ご注意ください。新大学は、五福キャンパスの5学部、高岡短期大学が4年制の芸術文化学部を新設しましたので、計8学部で発足し、日本海側では、新潟大学や金沢大学に匹敵する規模の総合大学となりました。その他にいろいろの点で変動のある年を迎えています。

今年4月からは大学院大学化され、新しい形の教育研究組織として、2つの研究部(医学薬学研究部と理工学研究部)と3つの教育部(生命融合科学教育部、医学薬学教育部、理工学教育部)が設置されることになりました。組織としては、いろいろと輻輳した複雑なものになりましたが、学部はこれまで通り存在しますので、何か用事のあるときは、旧来の名称で通じますので、ご安心下さい。

卒業式(3月23日)は全学同じ会場で行うことから、富山駅北口にある、オーバード・ホールを使うことになりました。杉谷キャンパスの体育館を使っていた例年の会では、父兄の方も多数参加されていたのですが、これからは収容力の点から父兄の参加は認められなくなりました。従いまして、同窓会関係の参加も無理となりました。また卒業祝賀会については、杉谷キャンパスの時は式が終了後学生食堂で医学部と合同で行っていたものも中止せざるを得ず、夕方からの市内ホテルで開かれる卒業祝賀会で、薬学部単独で行うことになりました。薬窓会としては、例年卒業生への印鑑や卒業証書用の筒を記念に贈って

きました。さらに卒業祝賀会は、同窓会の主催という形でしたが、今年からは学生との共同開催という形となりました。医学科や看護学科は、従来から、卒業式の日(夜)に謝恩会が開かれていましたが、薬学部にはそのような形の会がなかったために、卒業祝賀会という名称で、学生、教官の両方から参加費を取り、同窓会が寄付をするという形をとります。

今年度から薬学部6年制(当大学では薬学科)が始まります。国家試験受験資格が、6年制を卒業した者だけに与えられ、その間に長期間の病院、薬局実習が課せられます。また実習に入る前に、医学科と同様に臨床実習に入る資格を有するか否かを調べる、共用試験をパスすることが必要です。3年次から4年次の移行期に試験を行うことになっていますが、その詳細はまだ確定していません。いずれにしても、国家試験が今よりも難しくなることは確実だと思います。合格率が大学の評価の一つともなりますので、今から対策を練っています。また国公立大学は、4年制の薬学研究者を育成するコース(当大学では創薬科学科)も並立することになりました。卒業生は修士課程へ進むことを前提にカリキュラムを組んでいます。何しろ全く白紙の状態から始まるものだから、どのくらいの応募者があるか心配でしたが、かなりの応募者が見込めそうです。しかし、創薬科学科コースの場合、今後12年間の入学生に限定したものと、修士課程修了後薬学科と同様の臨床薬学関係の講義や長期間の実務実習を受ければ、薬剤師試験受験資格が与えられることになっていますので、それに対する教官や施設の対応など、悩まされることが多くあります。

病棟勤務薬剤師の朝

(88、H13年卒) 郡 妙 恵

病棟の朝は早い。朝食の時間は午前8時である。患者さんは食前の薬となると、その30分前には薬が配られるのを待っている。

私は今、循環器病棟において2交代制で朝から夜まで病棟に常駐し、薬の管理をしています。業務開始に先立って、病棟での薬に関する業務内容の調査を行いました。そこでわかったことは、看護師業務のなかで薬の占める割合は高く、しかもそれは他の業務の合間を縫って行われているということでした。またその業務は、1回分ごとの内服薬のセットに始まり、配薬、服薬介助、服薬確認、注射剤の混合調製、薬歴の確認、病棟在庫の管理など、多岐にわたっていました。このようなリスクの高い状況を減らすために、そして病棟における薬剤師の存在意義を高めるために、私たちはある行動に出ました。それはこれまでの服薬指導、調剤室内での調剤および注射剤の取り揃えを中心とした業務に加えて、内服薬の1回分ずつのセットや配薬、サテライトファーマシーでのすべての注射剤の混合調製などで、まさに「患者さんに薬を使用する直前まで薬剤師が関与する体制」をとったことです。

7時15分病院に到着した。まず夜間の病棟の動きをカルテでチェックする。緊急入院してきた患者さんがいたようだ、不眠を訴えていた患者さんがいたようだ、朝から検査で朝食後の薬はスキップとなる患者さんがいるようだ……。しかも循環器病棟は薬の変更がとても多い。追加処方があれば調剤、中止処方があればセットされている薬の中から一つ一つ抜いていく。こうしてやっと患者さん一

人ひとりの食前食後の薬が出来上がる。

7時30分からはすべての患者さんに対して配薬を行う。病棟にはいろいろな患者さんがいる。1日3回も配薬していれば、患者さんのキャラクターもつかめてくる。理解力が乏しい、関心が低いなど、ここで服薬指導の方向性が決められることもある。また配薬は患者さんからの訴えを直接聞ける機会でもある。薬の質問のみならず、薬が大きすぎて飲み込めない、粉が飲み辛いから錠剤に替えて欲しいという服薬時の不満、要望まで出てくる。わざわざ出向いていく手間が省ける。

7時45分、すべての注射剤を投与直前の形にまで準備する。1日投与分を4回に分けて調製するため、朝は特に件数が多く時間との勝負である。調製件数は日に20～30件。ここ最近では加算がとれる処方箋は1件しかないのだが……。こうして毎朝の業務は一段落つく。その後も服薬指導や調剤を行い、夕食後まで業務を続ける。

始めたばかりの業務なので問題点はまだまだ多く、他の医療スタッフの要望も取り入れて、うまく連携していくことが今後の課題です。薬の管理といってもまだ一部しか行われていないので、病棟にいる薬剤師に求められることを把握し、さらに業務を拡大して、ミスを起こさないよう心掛けていきたいです。そして薬に関するリスクマネジメントに大いに貢献していきたいです。

四姑娘山トレッキング

(48、S36年卒) 中嶋 啓

富山大学の山岳部は部員数がゼロとなり、とうとう廃部となってしまった。この現象は富山に限らず、どこの大学でも同じで入部希望者は激減しているようである。

我々OBは歳をとるにつれ激しい登山は出来なくなったものの、山を楽しむ気持ちが衰えることはなく、四季を通じての山の姿や山野草、野鳥の鳴き声などを楽しんでいる。

四年ほど前に製薬各社の山好き・酒好きな仲間が集まってヒマラヤの山々をトレッキングする「クラブ天山」を結成し、2年連続してネパール側から8000m級の山々を眺めてきた。

山岳部OBである48川上惇氏、50前田一郎氏、51肥田正孝氏の他に、野鳥観察を趣味とする48熊木健治氏も参加して、1回目はネパール東部のエベレストを中心とした山々を、2回目は西部のアンナプルナ、ダウラギリなどの山容を楽しんできた。

3回目は中央部の花の谷として知られているランタン谷をとの話もあったが、ネパールの政情不安定のため中止となった。



1. 四姑娘山

それに代わって、去年は中国の花の山「四姑娘山(スークーニャンシャン)」を計画した(写真1)。この山は四川省「成都」から北西

200kmに位置し、四人の姉妹がパンダを守るため虎退治したという伝説に基づく四つの峰からなっている。最高峰は末妹の四姑娘山(6250m)、最も低い峰は姉の太姑娘山(タークーニャンシャン、5025m)であり、我々は7月末から8月にかけて高山植物の最盛期に太姑娘山に登ることとした。

ここは花の宝庫であり、ブルーポピーをはじめエーデルワイス、シオガマやアズマギクの仲間、サクラソウの仲間など200種以上の高山植物が咲き乱れる山として有名である。

姉の山に登ることを楽しみに、「トイレは何処にあるか?」、「タバコを吸っていいか?」程度の中国語を覚えようと日中友好協会にも通い、準備につとめた。しかし、出発直前に足慣らしのため国内の山に出かけたのが運の尽き、木道でスリップ・一回転転倒し右足を骨折してしまった。松葉杖をついてベースキャンプまではと思ったものの、仲間に迷惑を掛けないために断念、悔しい数ヶ月を過ごした。



2. ガイドの張さん

写真は仲間が見舞い代わりに送ってくれたもので、写真2は高度順化で全山高山植物の山を案内してくれたチベット族の張さん。頂

上まではネパールからチベットを越えて出稼ぎに来ているシェルパ族二人にガイドしてもらっている。4000mを超えると高山病に苦しんだ仲間もいたようだが、高度が上がると青いケシ(写真3)や珍しいクッション植物(写真4 やはり青い花が美しい)が見られ、全員、山頂と高山植物を充分楽しんだようである。

今年は再びネパールに行こうとの話になっているので、参加希望の方があれば仲間と相談して歓迎したい。



3. 青いケシ(メコノプシス)



4. クッション植物

100字通信〈1〉

㊸ 15年卒 岩崎 光一

昭和15年3月に卒業した77名の同窓会を、平成12年10月に60年記念として富山で行いました。出席者は17名ほどで奥様方も数名おられました。近畿大学名誉教授の寺尾求馬氏も出席の予定でしたが、残念ながら亡くなられました。80歳を過ぎると、どうにか元気でいるのは大変です。私は49歳の時に脳卒中になりました。最近は何近の方々と電話でやりとりしております。官立時代は、卒業と同時に薬剤師免許を頂いたようですが、最近は何近を取得するには大変だと思います。今後も、薬剤師の後輩達の為に努力をしてください。

㊸ 15年卒 須田 民三

明治生まれはもはや殆ど生存者は見当たらず。大正は15年間しか無く、我々大正生まれも何れ10年も経過したら殆ど消えて行くと存じます。それで一句。

降る雪や大正は淡く消え行く 全亮。

㊸ 25年卒 今村 尚幸
代 今村貴美子

年毎に身体に変調を感じる此頃です。皆様とお逢いしたいとは思いますが言語障害、アルツハイマー、心筋梗塞の恐れありの診断で、目も見えず字も書けない毎日です。つきましては薬窓会誌はお休みさせて下さい。よろしくお願ひします。

㊸ 28年卒 眞船 恒雄

mfntno511@aioros.ocn.ne.jp

昨年のアインクラブ(40回卒)は水の都大阪でのクルーズ。楽しい出会いでした。今年は立山の紅葉。私の健康法は1日1万歩、ボケ防止にPC、心の癒しにカメラを持って内外旅行等を続行中。因みに昨年は496万歩(東京～鹿児島往復)でした。今年も頑張ります。

「五福会」へのご参加を お待ちしております!

寄稿：関東越嶺会（経済学部同窓会）

立田 征夫 氏

「五福会」は今回で14回目になります。最初は経済学部同窓会の「越嶺会」だけで開催しましたが、2回目からは工学部「仰岳会」と薬学部「薬窓会」も加わって、三学部同窓会合同の懇親会となっています。薬窓会のみなさまのご参加を歓迎します。

毎回、出席者の中からお一人に、“15分ほどのスピーチ”を依頼し、得意なテーマで発表していただいています。これまでの発表者をご紹介しますが、多士済々です。

薬窓会（薬学部）

横山司甫氏（コラーゲン技術研修会代表）

「コラーゲンについて」

・・・好評で2回発表

仰岳会（工学部）

澤泉重一氏（NHK出演）

「セレンディピティについて」

著書：「偶然からモノを見つけだす能力」

—「セレンディピティ」の活かし方

（角川出版）

関東越嶺会

澤井政夫氏（NHK：プロジェクトX出演）

「アジアハイウエーの裏話」

参考図書：「プロジェクトX 挑戦者たち（26）復興の懸け橋（NHK出版）」

濱田 和氏（ウエルネス21研究会主宰）

「ご縁について（自己体験）」

横井 靖氏

「危機管理について」

共著書：「R-map実践ガイド」—「全

ライフサイクルに対応した製品リスク

マネジメント」（日科技連出版）

初参加者には自己紹介とPRをお願いし、名刺交換会なども行っています。五福会での出会いがきっかけとなり、ビジネス上で会社訪問し合うケースも生れているとお聞きしています。まだ大きな成果は出ていないかもしれませんが、会を重ねることで進展すればと期待しているところです。薬窓会会員の参加が少ないので、みなさま奮ってのご参加をお願いします。

日本経済再浮上の合言葉は、“知識を知恵に変えよう”です。

<五福会のご案内>

開催：平成18年11月8日（水）

・・・年2回（5月と11月）開催しています

時間：午後6時30分～21時

会場：東京富山会館

（都営地下鉄白山駅から徒歩5分）

会費：2～3,000円（軽食とビールなど）

連絡先：薬窓会副幹事長 山下晴義

（03-5684-9652：会社）

メール：haruyoshi-yamashita@alfresa.co.jp

ゴルフクラブ便り

(55、S43年卒)柿崎直和

第68回コンペ戦記

(05年4月15日：金曜日)

抜けるような青空、暑からず寒からず、微風心地よい絶好のコンペ日和になりました。すでに前週末で桜は散ってしまいましたが、新芽が伸び始めた木々と芝が私たちを歓迎してくれました。

今回の戦場は、千葉県野田市にあるパブリックの「紫CCあやめコース」。隣接する「すみれコース」(メンバーシップ)とともに、国道16号沿線を代表する名コースです。フラットな地形の松林に、東・西36ホールが美しくレイアウトされています。

参加者は、29宮崎時雄さん、56加藤健二支部長はじめ総勢26名(女性3名)が集いました。茨城県境でもあり、つくば市から53南法夫さんが初参加してくれました。

マスター室前でのミーティングの後、いざ試合開始。葉窓会ならではの、昼食時の和やかな談笑をはさんで、全員無事にプレーを終了しました。風呂上りの勇士たちは、戦いの手応えが十分だったことを物語るように、全員爽やかな笑顔で溢れていました。

そして、乾いた喉を潤しながら表彰式。今回は当ゴルフ場から、ゴルフバッグと手袋(全員に)が賞品として寄贈されましたので、大いに盛りあがりました。成績を見ますと、案の定、アンダー・パーの好スコアで回った人が3名という、すばらしい結果でした。優勝は地の利を生かした国道16号沿線の住人、47伊勢谷篤弘さん。グロス88(46・42)、堂々の2アンダーでした。参加回数も少なくないのですが、何と初優勝とのこと。そして準優勝は、前週まで各地のスキー大会を転戦して

いて、今年初の初ゴルフという現役シニア・スキーレーサー48川上惇さんでした。ご挨拶では、「入賞」が初めてとおっしゃり、大喜びでした。3位が48安宅久弥さん。そして、栄えあるBB賞は46川畑耕祐さんで、絶大なる拍手喝采を受け、今後さらなる精進を期待されてキャディバッグが贈られました。BGはグロス87で、46竹腰時男さんと47小国益男さん、ともに当会ハンディ頭の6と、安定度を誇る名手たちでした。

第69回コンペ戦記

(05年10月14日：金曜日)

夜半まで、“翌朝は雨模様”との心配な予報でした。しかし一夜明けてみれば、日ごろ精進のよい“晴れオトコ”と“晴れオンナ”集団のゴルフコンペであり、秋晴れの青空広がるお天気でした。

今大会は昨年4月の66回と同じく、千葉県の八千代GCでの開催となりました。開場36年(1961)を過ぎ、美しくかつ戦略性溢れる好コースとして知られています。パブリックで都心からも近く、申し分のない戦場が選ばれました。

当初、参加申込みが遅くて事務局が少し心配したほどでしたが、結果的には、常連のみなさん中心に21名(女性2名)の方々が参加されました。

スタート前のミーティングで、「くれぐれも、おケガだけはなさらぬように」との幹事で挨拶、記念撮影を経て、コンペは始まりました。

今回も幹事の巧みな交渉の成果で、コースから昼食や飲み物、コンペ景品(キャディバッグとボール2ダース)の寄贈があり、豪華な表彰式となりました。好天とコース・コンディションが味方してか、戦績の方はロー・ハンディ者の有利な結果となりました。優勝

は、⑤柿崎。シングル・ハンディ9の重圧を克服して40・41=81、パープレーでベスグロも獲得しました。準優勝は久しぶり上位入賞の④京泉さん、3位は③南さんでした。

次回コンペは、いよいよ70回！を迎えます。35年間の総決算ということで記念大会を開催することに決まりました。以前から、「70回は、名幹事の④千原さんもご招待し、泊りがけで」との提案がありましたが、今回正式に決まり、参加者一同大いに氣勢を上げました。



100字通信〈2〉

④③ 31年卒 玉生 良久
身体の老化を自覚します。手足・腰に加えて脳です。物覚えの退化と物忘れの進化が起り、思考と行動の不一致があります。何かを実際に始める迄に時間を要します。これらを自分で自覚している間は大丈夫だろうと考えます。

④④ 32年卒 大杉光一郎
70才を超え、体力的に弱って来ています。病院へ行くと色々と悪いところが見つかり、若い

時の無理が出たような気がします。少しでも長く生きることが、皆様との楽しみを感じると思っております。よろしくお願ひします。

④④ 32年卒 高木 良造

この春、結婚40周年を記念して、妻とハワイに行ってきた。温暖で湿気の少ないからとした気候と、日本からの新婚さんが多いワイキキの浜辺は、如何にも旧婚旅行にふさわしい場所であった。お陰で10年ぐらい若返った気がする。

④⑦ 35年卒 籠瀬 信夫

今年2月23～25日、S35年卒の同級会が石垣島で開催されました。全国から29名が参加、天候にもめぐまれ西表島、竹富島にも足をのぼし最高に楽しい会となりました。南国の島々でのんびりした時間を持って、感謝感謝でした。

④⑧ 36年卒 川上 惇

at-kawakami@blue.ocn.ne.jp

坂東33ヶ所観音巡りに出かけ、関東一周の札所で般若心経を唱え納経帳にご朱印をもらう。観世音菩薩は33の姿に変化して衆生を救うとされる。33ヶ所をまわり終えたら、結願御礼に長野の善光寺と上田の北向観音に行きたい。

④⑧ 36年卒 中嶋 啓

mn3f55@kjps.net

健康維持を目的とした(財)日本万歩クラブのお手伝いをしています。登山の他、里山歩き、植物観察、スノーシュートレッキング、歴史散歩、秘湯巡りなどを行っていますので、歩く事に興味のある方は是非ご連絡下さい。

④⑧ 36年卒 船場 定信

薬学教育6年制発足の年とのこと。数年前ウォルグリーンの代表の講演を想い起します。米国内で薬剤師が最も信頼される職業となったのは、医師教育と協同の実地教育を行い、お互いの信頼が出来てからとのこと、期待したい。

平成 17 年度 富山薬窓会 首都圏支部 年会費 納入者一覧

(総計 322 名)

※平成 17 年 4 月から平成 18 年 3 月
までに年会費を納入された方の一覧
です。

回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名
22	昭和	9	橋本 弘	37	昭和	24	松岡邦衛	42	昭和	30	久世啓吾
22	昭和	9	津森繁隆	37	昭和	24	斉藤正巳	42	昭和	30	桑野二郎
23	昭和	10	山下正男	37	昭和	24	千葉重治	42	昭和	30	才川 勇
23	昭和	10	本間嘉男	37	昭和	24	待島 昇	42	昭和	30	山上高德
26	昭和	13	金盛益三	37	昭和	24	大和宗雄	42	昭和	30	種谷 豊
26	昭和	13	大森敏幹	37	昭和	24	白土昭伍	42	昭和	30	渡邊 静
26	昭和	13	竹澤富三	38	昭和	25	栗田泰至	42	昭和	30	武内哲夫
28	昭和	15	岩崎光一	38	昭和	25	羽田豊道	42	昭和	30	佐藤哲男
28	昭和	15	神山元治	38	昭和	25	橋本人之	43	昭和	31	久郷正孝
28	昭和	15	須田民三	38	昭和	25	熊谷隆司	43	昭和	31	元田 修
28	昭和	15	柳澤政隆	38	昭和	25	小西一光	43	昭和	31	古徳 治
29	昭和	16	宮崎時雄	38	昭和	25	松井信政	43	昭和	31	細 俊彦
29	昭和	16	大坪信次	38	昭和	25	上野純一	43	昭和	31	山岸信郎
29	昭和	16	内田晴孝	38	昭和	25	深井三郎	43	昭和	31	車田知之
30	昭和	16	金子春雄	38	昭和	25	津田照明	43	昭和	31	上野謙爾
30	昭和	16	高山 薫	38	昭和	25	飛永精照	43	昭和	31	本多 存
30	昭和	16	中川文雄	38	昭和	25	林 昌宏	43	昭和	31	幕内キク
30	昭和	17	米屋清一	39	昭和	26	永森 肇	43	昭和	31	落合信雄
31	昭和	15	渡会春雄	39	昭和	26	大澤弥生	43	昭和	31	脇田秀雄
31	昭和	17	米田力次郎	39	昭和	26	米丸洋子	44	昭和	32	伊藤秀仁
32	昭和	18	菅山順一	39	昭和	26	本郷 修	44	昭和	32	岡西澄子
32	昭和	18	石倉隆一	40	昭和	28	金岡長英	44	昭和	32	岩崎 朗
32	昭和	18	渡辺伸一郎	40	昭和	28	高橋重二	44	昭和	32	吉田豊三
34	昭和	20	永井正之	40	昭和	28	高瀬ミサ子	44	昭和	32	金森桂子
34	昭和	20	織井文貞	40	昭和	28	小柳昭四郎	44	昭和	32	高瀬清孝
34	昭和	20	猪又藤太郎	40	昭和	28	松田忠幸	44	昭和	32	紙谷得子
35	昭和	22	大高 諒	40	昭和	28	千原秀夫	44	昭和	32	車田千秋
35	昭和	22	富岡穂一	40	昭和	28	眞船恒雄	44	昭和	32	川村隆子
35	昭和	22	野村哲夫	41	昭和	29	基常弘晃	44	昭和	32	大杉光一郎
36	昭和	23	高柳 清	41	昭和	29	志甫 正	44	昭和	32	鈴木芳子
36	昭和	23	高柳茂雄	41	昭和	29	松田利子	44	昭和	32	岡田和造
36	昭和	23	川原一美	41	昭和	29	上銘外喜夫	44	昭和	32	高木良造
36	昭和	23	島谷佐太郎	41	昭和	29	諏訪利則	44	昭和	32	石原俊明
37	昭和	24	伊藤謙治	41	昭和	29	前川 昶	44	昭和	32	林 吉孝
37	昭和	24	山口輝夫	41	昭和	29	川瀬 和子	45	昭和	33	安田孝子
37	昭和	24	秋元	41	昭和	29	北川喜章	45	昭和	33	橋浦十八

回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名
45	昭和	33	荒木紀子	48	昭和	36	川上芳子	53	昭和	41	安西慶子
45	昭和	33	佐藤 忠	48	昭和	36	船場定信	53	昭和	41	岩崎孝一
45	昭和	33	佐藤池鶴子	48	昭和	36	前田伸子	53	昭和	41	曲淵徹雄
45	昭和	33	児玉英篤	48	昭和	36	定留温子	53	昭和	41	坂本理英子
45	昭和	33	松岡慶子	48	昭和	36	田村美智子	53	昭和	41	中山裕江
45	昭和	33	新森信正	48	昭和	36	藤原 忠	53	昭和	41	南 法夫
45	昭和	33	神田満枝	48	昭和	36	樋口明彦	53	昭和	41	福田 孚
45	昭和	33	大郷利治	48	昭和	36	油木劭之	53	昭和	41	福田珠子
45	昭和	33	湊 秀夫	49	昭和	37	三尾美和子	53	昭和	43	太田晴美
46	昭和	34	加藤恭一	49	昭和	37	小川信吾	54	昭和	42	阿部範子
46	昭和	34	西岡碩枝	49	昭和	37	半澤弥栄子	54	昭和	42	奥田昌子
46	昭和	34	青木直右門	49	昭和	37	林 幸子	54	昭和	42	宮下克彦
46	昭和	34	川畑耕祐	49	昭和	37	廣江光代	54	昭和	42	金森朱美
46	昭和	34	竹腰時男	49	昭和	37	鈴木国男	54	昭和	42	高津聖志
46	昭和	34	尾嶋司郎	49	昭和	37	森本武男	54	昭和	42	高津智子
46	昭和	34	齋藤諒三	50	昭和	38	下田 力	54	昭和	42	佐藤和恵
46	昭和	34	結城澄子	50	昭和	38	宮澤英雄	54	昭和	42	山口征司
46	昭和	34	五十嵐俊二	50	昭和	38	高野裕子	54	昭和	42	市川
47	昭和	35	安川淑子	50	昭和	38	秋葉祐子	54	昭和	42	市川春子
47	昭和	35	安川正巳	50	昭和	38	秋本紀子	54	昭和	42	小木曾周子
47	昭和	35	関 誠	50	昭和	38	前田一郎	54	昭和	42	庄司孝市
47	昭和	35	京泉清男	50	昭和	38	武石万里子	54	昭和	42	庄司幸子
47	昭和	35	橋本喜信	50	昭和	38	木原幸弘	54	昭和	42	森川礼子
47	昭和	35	古川貞子	50	昭和	38	野中美代子	54	昭和	42	井上みどり
47	昭和	35	市中滋郎	50	昭和	38	脇谷紀代子	55	昭和	43	阿部 啓
47	昭和	35	室生知子	50	昭和	38	脇谷昌志	55	昭和	43	加藤忠昭
47	昭和	35	若林庸夫	50	昭和	38	櫻井久子	55	昭和	43	小西和子
47	昭和	35	城宝史郎	51	昭和	39	加賀美壯一	55	昭和	43	石橋嘉夫
47	昭和	35	須藤昌二	51	昭和	39	宮城 淳	55	昭和	43	滝沢春美
47	昭和	35	倉石弘一	51	昭和	39	宮城征子	55	昭和	43	竹原 仰
47	昭和	35	瀧瀬信夫	51	昭和	39	古市泰宏	55	昭和	43	南 菖子
47	昭和	35	梅原 弘	51	昭和	39	諏訪庸夫	55	昭和	43	梅本美智子
47	昭和	35	上村恵子	51	昭和	39	長谷川悦子	55	昭和	43	蔵 禮子
48	昭和	36	井上禎子	51	昭和	39	塚越由美	55	昭和	43	清水正明
48	昭和	36	吉田光昭	51	昭和	39	横山春江	55	昭和	43	柿崎直和
48	昭和	36	久保一夫	52	昭和	40	広瀬南海子	56	昭和	44	加藤正子
48	昭和	36	久保春子	52	昭和	40	小野澤カツ子	56	昭和	44	三石史郎
48	昭和	36	絹野浩二	52	昭和	40	水林須美子	56	昭和	44	山本 恵
48	昭和	36	三浦 晋	52	昭和	40	是枝 潤	56	昭和	44	酒井綾子
48	昭和	36	川上 惇	52	昭和	42	坂本由美子	56	昭和	44	深澤 宣

回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名
56	昭和	44	田村きく江	62	昭和	50	川添敏司	71	昭和59-院61		鈴木敏彰
56	昭和	44	綿鍋維男	62	昭和	50	浅川恵子	72	昭和	60	根岸邦枝
57	昭和	44	服部 仁	62	昭和	50	中西まや子	73	昭和	61	寺田 寿
57	昭和	45	伊藤要一	62	昭和	50	萩野洋子	73	昭和	61	須田浩守
57	昭和	45	古屋典子	63	昭和	51	荒牧すが子	74	昭和	62	金子明代
57	昭和	45	松林久一	63	昭和	51	高橋裕子	76	平成	元年	朝倉 渡
57	昭和	45	真野由比子	63	昭和	51	小林豊和	77	平成	2	下谷明彦
57	昭和	45	天笠之珠子	63	昭和	51	萩野幸司	77	平成	2	増本純也
57	昭和	45	米沢伸子	63	昭和	51	本郷富江	78	平成	3	嶋田修治
57	昭和	45	北野栄一	63	昭和	51	矢澤清子	82	平成	7	大内めぐみ
57	昭和	45	林 昌美	64	昭和	52	河村 攻	86	平成	11	川西那奈
58	昭和	46	加藤健二	64	昭和	52	河村光恵	89	平成	14	木村 徹
58	昭和	46	三石知恵子	64	昭和	52	坂口一夫				旧職員 渡辺和夫
58	昭和	46	上田宗央	64	昭和	52	鹿田謙一				職員 谷村 徳
58	昭和	46	石井誠司	64	昭和	52	真船英一				
58	昭和	46	浜谷行高	64	昭和	52	西山 祥				
58	昭和	46	穂苜 茂	64	昭和	52	石村真理子				
58	昭和	46	末木一夫	64	昭和	52	鈴木利之				
58	昭和	46	村上 学	65	昭和	53	西村嘉博				
59	昭和	47	井本直樹	66	昭和	54	井上 豊				
59	昭和	47	三浦嘉統	66	昭和	54	金子美代子				
59	昭和	47	三輪 保	66	昭和	54	鹿田史紀				
59	昭和	47	松本茂外志	66	昭和	54	真船恭子				
59	昭和	47	清水善行	67	昭和	55	大岸洋子				
59	昭和	47	田代眞一	68	昭和	56	大野伸子				
59	昭和	47	村上香代子	68	昭和	56	日比野康英				
59	昭和	47	駒田由美子	68	昭和	56	益見厚子				
60	昭和	48	加藤マリ子	69	昭和	57	宇田晴美				
60	昭和	48	亀田治子	69	昭和	57	佐々木晴代				
60	昭和	48	中西憲幸	69	昭和	57	小林真弓				
60	昭和	48	田谷栄子	69	昭和	57	塚本尋子				
60	昭和	48	田中加代子	70	昭和	58	笠原貴子				
60	昭和	48	山下晴義	70	昭和	58	工藤知子				
60	昭和	48	遠藤葉子	70	昭和	58	江口美智子				
61	昭和	49	梶谷早苗	70	昭和	58	佐川征博				
61	昭和	49	浅川 学	70	昭和	58	織田寿久				
61	昭和	49	中村直隆	71	昭和	59	近藤高史				
62	昭和	50	岩崎典子	71	昭和	59	黒田豊志				
62	昭和	50	西山信右	71	昭和	59	小澤佐余子				
62	昭和	50	川添清子	71	昭和	59	大川恵子				

平成 17 年度支部活動報告

1. 支部活動報告

- ① 平成 17 年度首都圏支部定期総会
平成 17 年 6 月 11 日(土) ルビーホール
- ② 第 1 回役員会
平成 15 年 7 月 27 日(水) 第一製薬会議室
- ③ 第 1 回幹事会
平成 17 年 12 月 20 日(火) 第一製薬会議室
- ④ 第 2 回幹事会
平成 18 年 3 月 28 日(火) 第一製薬会議室

富山薬窓会首都圏支部

資産状況 (平成 18 年 3 月末現在)

1. 株券
北陸電力 3,785 株 (額面 500 円)
2. 中期国債ファンド
713,106 口 (丸八証券)
3. 定期預金
1,117,452 円 (北陸銀行)

物故者

(慎んでご冥福をお祈り申し上げます。)

- ⑤⑤ 43年卒 白 崎 欽 三 (15. 6.27)
- ③⑨ 26年卒 阪 出 典 一 (16. 1. 2)
- ③⑨ 26年卒 杉 林 登 (16. 3. 7)
- ③⑦ 24年卒 東 野 昭 久 (16. 5.)
- ④③ 31年卒 木 谷 健 一 (16.10. 1)
- ③⑥ 23年卒 茂 住 昇 (16.12. 2)
- ⑤② 40年卒 堺 野 紀 子 (16.12. 5)
- ②⑤ 12年卒 佐 藤 太 助 (17. 4. 6)
- ③④ 20年卒 俵 清 秀 (17. 4.28)
- ⑥② 50年卒 杉 林 雅 子 (17. 6.)
- ⑥④ 52年卒 鹿 田 謙 一 (17.10. 1)
- ③⑤ 22年卒 時 澤 利 尚 (17.11.)
- ⑤① 39年卒 西 正 義 (18. 1. 1)
- ②② 9年卒 新 名 茂
- ③⑩ 17年卒 稲 垣 淳

平成 17 年度 会計報告
(平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)

収 入 の 部				単位 円
予 算		実 績		
項 目	金 額	項 目	金 額	
繰 越 金	△ 70,000	繰 越 金	67,859	
年 会 費	400,000	総 会 費	482,000	
総 会 費	600,000	年 会 費	326,200	
株 式 配 当	170,000	株 式 配 当	176,004	
預 金 よ り	400,000	預 金 よ り	359,181	
そ の 他	0	受 取 利 息	0	
合 計	1,500,000	合 計	1,411,244	

支 出 の 部				単位 円
予 算		実 績		
項 目	金 額	項 目	金 額	
総 会 費	500,000	総 会 費	480,816	
会 合 費	50,000	会 合 費	21,360	
交 際 費	10,000	交 際 費	0	
事 務 通 信 費	200,000	事 務 通 信 費	175,560	
同 好 会 補 助 費	64,000	同 好 会 補 助 費	64,000	
会 報 発 行 費	550,000	会 報 発 行 費	445,998	
出 張 費	50,000	出 張 費	61,350	
貸 し 金 庫 費	21,000	貸 し 金 庫 費	21,000	
事 務 局 費	52,500	事 務 局 費	52,500	
繰 越 金	2,500	繰 越 金	88,660	
合 計	1,500,000	合 計	1,411,244	

平成 18 年度 予算(案)
(平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)

収 入 の 部		支 出 の 部	
項 目	金 額	項 目	金 額
繰 越 金	88,660	総 会 費	500,000
年 会 費	400,000	会 合 費	50,000
総 会 費	600,000	交 際 費	10,000
株 式 配 当	170,000	事 務 通 信 費	200,000
預 金 よ り	241,340	同 好 会 補 助 費	64,000
		会 報 発 行 費	550,000
		出 張 費	50,000
		貸 し 金 庫 費	21,000
		事 務 局 費	52,500
		繰 越 金	2,500
合 計	1,500,000	合 計	1,500,000

⑤⑩ 38年卒 宮澤 英雄

hmmya@f2.dion.ne.jp

椎間板ヘルニアを患った。手術には至らなかったものの2週間入院した。入院なんて何十年ぶりのことか。病理のことは少しは解っていたつもりだが、生活習慣のどこかがひずんでいたのかも。恥ずかしいことではありました。

⑤③ 41年卒 岩崎 孝一

koichi-iwasaki@poppy.ocn.ne.jp

立山登山、今年から縁あって富山の会社に勤める事になり、毎週富山に来ております。先日初めて立山に登りアルペンルートを通して信濃大町に出、松本経由で帰京しました。素晴らしい景色で、再度時間をかけて散策を考えています。

—— 編集後記 ——

やっと、会報「首都圏遠久朶」をお届けできました。総会案内に同封できなかったことをお詫び申し上げます。昨年10月に新生「富山大学」が誕生し、大空・世界を飛翔するイメージのすばらしい学章ができましたのでご紹介しました。8つの学部が勢揃いした北陸有数の総合大学で学び、力強いパワーを身につけ、さまざまな分野で活躍しようとの情熱に溢れる卒業生が社会に出てきてくれることを期待したいと思います。今号では、総会で話題提供して下さった⑤⑤檀原宏文さんのご講演の概要を掲載しました。ご事情で総会に欠席された方々にもぜひ、お読みいただきたいと思います。さて、写真と俳句を組み合わせた「俳写」を長い間投稿して下さった④③木谷健一さんが亡くなりましたので、紙面がさびしくなりましたが、今回から、写真の腕では定評のある、④⑧中嶋啓さんに美しい景色と紀行文をご提供いただきました。カラーでお見せできないのが、何とも残念です。

(編集者 ⑤⑤ 柿崎 直和)

—— お 願 い ——

首都圏支部では本部の永久会費とは別に独自の活動維持の為、会員の皆様から年間1,000円の会費を徴収しています。ご理解とご協力をお願い申し上げます。